

次の〈文章Ⅰ〉、〈文章Ⅱ〉を読んで後の問いに答えなさい。なお〈文章Ⅱ〉は「世界一貧しい大統領」で知られるウルグアイ東方共和国のホセ・ムヒカ大統領（当時）が国際連合の会議でスピーチした内容を翻訳した絵本『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』の一部である。

〔文章Ⅰ〕 益川敏英著『科学者は戦争で何をしたか』

戦後七〇年、科学は飛躍的に進歩しましたが、同時に軍事研究にも最新の科学が導入され、多岐にわたる兵器開発が行われています。その実態がどういふものなのか、私なりに探ってみたいと思いますが、その前に、科学と人々の関係についてお話ししておく必要があるでしょう。科学を取り巻く世界が、時代とともに急速に変わりつつあることを皆さんに知ってほしいからです。

私が生かしの頃は、『ノンちゃん雲に乗る』（一九五五年公開）などの映画を見にいくと、初めの一〇分くらいはニュース映画をやっていたものです。そのニュース映像の中に、髭を生やした考古学者の老教授が助手二、三人を連れてのんびりと発掘作業をしている場面がありました。

そんな光景は今もう見られません。今の考古学はシステマチックになっていて、そんな小規模の発掘作業などほとんどありません。何百人もの人手を集めて一列に並んでピットと笛を鳴らすと作業ははじめ、何か発見されると確認のためにまた笛が鳴らされ作業ストップ。こうして考古学の分野は、金も人手も手段もどんどん大掛かりになっていきます。

科学の研究も同じです。大掛かりな手段でデータを取れば、それよりもさらに規模を拡大しないと次の研究ができない。だから必然的に科学というのは巨大化せざるを得ないのです。

するとどんなことが起きるか。巨大化した科学が、人々の生活からどんどん遠のいていってしまうのです。昔は、テレビの裏蓋を外すと、中に真空管が入っていて、我が家のは十七本入っている「十七極テレビ」でしたが、配線板も配線図も表示してあって、私のようなラジオ少年にはその仕組みが大体分かったものです。けれど、今のテレビは「一千万トランジスタ」です。今、テレビが壊れた、パソコンが壊れたといつて、自分で直せる人がいますか？電気屋さんでも直せませんし、電子工学科の教授だって直せない。

い。下手にいじれば壊してしまう。直せるのはそのメーカーの限られた専門家だけです。科学が人々の生活からハナれ、本来より難しいものになりつつあるのです。

これを私は「科学疎外^A」と呼んでいます。科学を利用する市場経済ばかりが膨張し、その成果を人々は一応享受しているわけですが、その科学のユウウ性を理解している人がいるとはとても思えません。一般市民は科学にどんどん置いていかれるばかりです。一般市民ばかりではありません。実は当の科学者自身でさえ、巨大化した科学の中で、研究が分業化、細分化されて、自分がしている研究が、一体どんな目的でなされているのか、その全貌が良く分かっていない場合が多いのです。

（中略）

科学が一般の人々の手から遠ざかり、研究者さえも巨大化した科学の行先が見えなくなってきた。その裏には巨大な資本が動いています。戦後、何が大きく変わったかと言えば、国家による強力な科学技術政策の推進もありましたが、何よりケンチヨだったのは、科学研究に対するかつてない産業資本の投資と、その結果の商品化です。

（1）、科学政策の中に市場原理が根深く入り込んできている。そのため、純粋な科学研究が市場原理に左右され、研究者たちがマネーゲームの中で翻弄されている、というのが今の実態です。

たとえば大学における研究でも、今や一年ごとの短期のサイクルでしか研究費が下りないという現実があります。ある研究テーマで研究費を取ろうと思うと、研究計画を出し、一年ごとに中間報告を提出し、その結果を出していかないとお金が下りないのです。

昔は、政府から講座研究費という研究費が下りていて、「この研究はちよつと冒険だけれど、結果が出せたら非常に面白いことになる」というようなリスクのある研究も、ある程度長いスパンで取り組むことができたものです。今はそれができない。すぐ役立つ結果を短いスパンで求められる。

学内の雰囲気を見ても、若い研究者たちがそうした余裕のない汲々とした空気の中で仕事をしている感じが伝わってきます。短期に結果を求められる成果主義の中で行われる研究内容には、あまりロマンも好奇心をそそる冒険心も感じられません。

市場原理の鉄則は、ご存知のように「選択と集中」です。まんべんなくお金をばらまくのではなく、儲かりそうなところにピンポイントで資金を集中させる。しばらくお金を投下して、これはダメだと判断したら、さつと資金を引き揚げる。引き揚げた後は知

ったことじゃない。そしてさらに^{こうみく}鉅脈のありそうなところに資金投下する。そうやって大きな利益を上げていくのが、「選択と集中」の仕組みです。

科学の世界もどんだこの「選択と集中」の方向性が進み、大きな利益が得られそうな分野には大金が投入され、地味で儲かる見込みのない分野には資金が回らない仕組みが常態化しつつあります。各分野の研究で、どう研究資金を確保するか、それこそ研究そのものの死活問題でもあるのです。

(2)、科学の分野でいかに「選択と集中」を試みても、どの研究が成功して大きな利益を生むかなんて、前もって誰が分かると言うのでしょうか。名古屋大学^{注4}で赤崎勇^{いさむ}氏や天野浩^{あまのひろし}氏が研究していらした青色LEDは、地道な努力と一五〇〇回以上の実験の失敗を重ねた末に、見事花開いた発明です。

その偉業でノーベル賞を授与されたから、皆さん大騒ぎしていますが、実験が成功するまではほとんど誰も興味を向けない、小さな研究でした。研究資金が潤沢^{うるたけ}であったわけでもなく、苦しい中で節約しながら細々と研究を続けてこられたのだと思います。

このまま科学の世界でさらに「選択と集中」が進めば、人気のある分野だけに資金と人材が集まり、地味で手間のかかる小さな研究は、真っ先に切り捨てられていくでしょう。それで一体何が残るのでしょうか。

注1 トランジスタ——半導体材料で作った電子部品。電流の流れを制御する役割をもつ。一千万トランジスタはそれが一千万本あるということ。

注2 産業資本——工場や機械、原材料など、生産活動に使うお金や設備のこと。

注3 汲々とした——あくせくして、ゆとりのない様子。

注4 赤崎勇・天野浩——いずれも名古屋大学特別教授。青色LEDの開発、実用化に世界で初めて成功した。二〇一四年ノーベル物理学賞受賞。

〈文章Ⅱ〉くさばよしみ編『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』

いまの文明は、わたしたちがつくったものです。わたしたちは、もっと便利でもっとよいものを手に入れようと、さまざまなものをつくってきました。おかげで、世の中はおどろくほど発展しました。

しかしそれによって、ものをたくさんつくって売ってお金をもうけ、もうけたお金でほしいものを買い、(3)もっとたくさんほしくなってもっと手に入れようとする、そんな社会を生み出しました。

いまや、ものを売り買いする場所は世界に広がりました。わたしたちは、できるだけ安くつくって、できるだけ高く売るために、どの国のどこの人々を利用したらいいだろうかと、世界をながめるようになりました。

(中略)
人の命についてはどうでしょうか。

すなおに考えてみましょう。わたしたちは発展するためにこの世に生まれてきたのです。ありません。この惑星に、幸せになろうと思って生まれてきたのです。

(中略)
社会が発展することが、幸福をそこなうものであってはなりません。発展とは、人間の幸せの味方でなくてはならないのです。

人と人とが幸せな関係を結ぶこと、
子どもを育てること、
友人を持つこと、
地球上に愛があること——

こうしたものは、人間が生きたためにぎりぎり必要な土台です。発展は、これらをつくることの味方でなくてはならない。

【マーク式問題】問一～問五の解答は指定された解答番号欄に正しくマークすること。

問一 (1) (3) に入る言葉として適当なものを次からそれぞれ選びなさい。ただし同じ番号を繰り返し用いてはいけません。解答番号は□～□

- ① さらに
- ② しかし
- ③ つまり
- ④ さて
- ⑤ もしも

問二 部A「科学疎外」とはどのような状態のことか。その説明として最も適当

なものを次から選びなさい。解答番号は□

- ① 科学が専門家の中で分野ごとに分かれすぎて、共有もうまくいかず新しい技術の開発が止まってしまう状態。
- ② 科学が一般の人々に広まり過ぎて正しい理解が薄れ、誤った知識や情報が広がってしまふような状態。
- ③ 科学が巨大化し複雑になることで一部の専門家だけのものとなり、人々の生活から遠ざかってしまう状態。
- ④ 科学が急速に進歩することであらゆる人々が自由に利用できるようになり、生活に浸透していく状態。
- ⑤ 科学が発展することで国や企業が利益を独占し、多くの人々がその恩恵を受けられなくなってしまう状態。

問三 部B「純粋な科学研究」とはどのようなものか。その説明として最も適当

なものを次から選びなさい。解答番号は□

- ① 研究者が自分の関心や好奇心から進める研究。
- ② 国や会社の命令にしたがって開発を進める研究。
- ③ すぐに役立つ成果を出すことを目指す研究。
- ④ 市場の求める要望に応えていこうとする研究。
- ⑤ 長期的な計画性を持って未来を変えていく研究。

問四 部C「それで一体何が残るのでしょうか」とあるが、この表現に込められ

た筆者の思いの説明として最も適当なものを次から選びなさい。解答番号は□

- ① 大きな資金が集まれば、研究が効率よく進み短期間で成果が出るが、欠陥のある研究が多くなるのではないかと思っている。
- ② 「選択と集中」が進み、地味で儲かる見込みのない研究ができなくなると、科学は発展しなくなるのではないかと危惧している。
- ③ 地味で利益の少ない研究にも資金を配分しようとする、本当に必要な研究にお金がかけれないのではないかと不安に思っている。
- ④ 利益を生む分野だけに資金を集中させれば効率がよく、他の研究は切り捨てられとも社会の発展のためには仕方がないと考えている。
- ⑤ 成果が出ることばかりが重要視される社会では、若い研究者たちがチャレンジ精神を失ってしまうのではないかと心配している。

問五 〈文章Ⅰ〉と〈文章Ⅱ〉を読んだタケシさんは二つの文章についてまとめた内容を授業で発表することにした。後の文章はその発表原稿である。これを読んで後の(一)(二)の問いに答えなさい。

《発表原稿》

二つの文章は「 X 」という点で共通していると思います。一方で〈文章Ⅱ〉では発展がお金儲けや個人の欲を満たそうとするためのもではなく「 Y 」であると述べていて、この視点は大切にしなければならぬと感じました。

(一) 「 X 」にあてはまるものとして最も適当なものを次から選びなさい。解

答番号は 7

- ① 科学技術の進歩によって人間が自然をコントロールできるようになったと述べている
- ② 技術やお金を投じて開発を進めていこうとする現代社会の負の部分について述べている
- ③ 科学や経済の発展により生活が便利になったことを賞賛している
- ④ 高度な研究や発展は専門家だけの手に委ねられるべきだという立場をとっている
- ⑤ 科学の進歩がすべての人々に平等な恩恵をもたらしていることを強調している

(二) 「 Y 」にあてはまるものとして最も適当なものを次から選びなさい。解
答番号は 8

- ① 世界経済の安定のために必要な手段
- ② 科学や技術を育成するための原動力
- ③ 企業や国家の競争力を高めるための要素
- ④ 人間が幸せに生きていくための手助け
- ⑤ 地球環境と共存するための制約

【記述式問題】問六、問七の解答は記述用解答欄に記入しなさい。

問六 …………… 部 a～e の漢字はその読みを答え、カタカナは漢字に改めなさい。

問七 …………… 部「科学の研究も同じ」とあるが、何がどのような点で科学の研究と同じ
と言っているのか。解答欄に合う形で答えなさい。

次の文章は、梨木香歩『西の魔女が死んだ』の一節である。中学生になって学校を休むようになった「まい」は、両親とはなれ、しばらくイギリス人の祖母宅で暮らすことになった。以下はそれに続く場面である。文章を読んで、後の問いに答えなさい。

昨日と同じようにホトトギスが鳴き始め、さわやかな風が吹き抜けた。まいは、おばあちゃんが昨夜話してくれたことを、もう一度ゆっくり自分の言葉で考えようとした。

——もしそれが本当なら、(たぶん本当なんだろう。おばあちゃんが嘘をつくなんて考えられない。しかもこんな「ア」の。)わたしだって魔女の血が流れていることになると。ということはわたしにもこれから先、超能力が出てくるかもしれないってことだ。ちよつと怖いような気がするけれど、もし、そうだったら、もう学校のことでもこんなにつらい思いをしなくてもすむんじゃないだろうか。すいすいと、まるで水の中を泳ぐ魚のように様々な障害を避けながら、スムーズに生きていけるようになるんじゃないかしら。

まいはそう思い立つと何だかうさぎさとして、眼の前が明るくなっていくような気がした。

その日の夕食のあと、リビングで縫いものを始めたおばあちゃんに、まいは思い切つて訊いてみた。

「おばあちゃん、わたしもがんばったら、その、超能力が持てるようになるかしら」

おばあちゃんが、思いがけない言葉を聞いたように、まじまじとまいを見つめたので、まいは何だか自分がひどく軽薄なことを言ったような気がして思わず赤くなった。

「そうね、まいは生まれつきそういう力があるわけではないので、相当努力しなければなりませんよ」

おばあちゃんは何か考えながら、ゆつくりと言葉を選んで言った。

「わたし、がんばる」

まいは、破れかぶれのひたむきさで応じた。

「だから、教えて、おばあちゃん。どんな努力をしたらいいの?」

「よろしい」

おばあちゃんはわざと真面目くさつて応じた。

「それではまず、基礎トレーニングをしなければ」

「基礎トレーニング?」

「そうです。超能力というのは要するに、精神世界の産物ですから、これを統御するには精神力が必要です。スポーツをやるときに、例えば水泳の選手でも陸上トレーニングをしたり、バレーボールや野球の選手でも、直接競技には関係のない、腕立て伏せや柔軟体操などをしますね。なぜ?」

「体力をつけるためでしょう」

「そう。スポーツをするのに体力が必要なように、魔法や奇跡を起こすのにも精神力が必要です。腕の力が全くなくては、ラケットやバットは振れないでしょう」

「じゃあ、おばあちゃんは精神力をつけるために基礎トレーニングが必要だっていうのね」

「そうです」

まいは何だかいやな予感がしてきた。

「精神力って、根性みたいなもの?」

自分には根性という言葉で総称されるような、いわゆる持久力のたぐいが徹底的に欠けていると、まいは常日頃からひそかに認めていた。もし、魔女になるのに根性がいるというのだったら、まいはゼロからのスタートどころかマイナスからのスタートになる。見通しはずいぶん暗い。

「根性という言葉は、やみくもにがんばるっていう感じがしますね。おばあちゃんの言う精神力っていうのは、正しい方向をきちんとキャッチするアンテナをしっかりと立て、身体と心がそれをしっかりと受け止めるっていう感じですね」

「ふうん」

まいはわかったようなわからないような変な気持ちだった。

「座禅を組んだり、瞑想したりするの?」

おばあちゃんは、またにやっとして、

「それはまだちよつと早いですね。いきなりバットを振って肩を脱臼するようなものです」

まいはがっかりした。座禅も瞑想もまだ早いのだったら、超能力で未来を予知したり、呪文を唱えて何かに変身するなんてことは、もう気が遠くなるくらい先のことではない

「十一時までにね」

おばあちゃんが念を押した。

D 「ねえ、おばあちゃん。意志の力って、後から強くできるものなの？ 生まれつき決ま
っているんじゃないの？」

まいは聞いてみた。

「ありがたいことに、生まれつき意志の力が弱くても、少しずつ強くなれますよ。少し
ずつ、長い時間をかけて、だんだんに強くしていけばね。生まれつき、体力のあまりな
い人でも、そうやって体力をつけていくようにね。最初は何も変わらないように思いま
す。そしてだんだんに疑いの心や、怠け心、あきらめ、投げやりな気持ちが出てきます。
それに打ち勝って、ただ黙々と続けるのです。そうして、もう永久に何も変わらないん
じゃないかと思われるころ、ようやく、以前の自分とは違う自分を発見するような出来
事が起こるでしょう。そしてまた、地道な努力を続ける。退屈な日々の連続で、また、
ある日突然、今までの自分とは更に違う自分を見ることになる、その繰り返しです」

おばあちゃんはゆっくりと続けた。

「ただ、体力をつけたり、他の能力をつけたりすると違って、意志の力をつけること
の難しいのは、それに挑戦するのが意志の力の弱い人の場合が多いので、挫折しやすい
ということですね」

なるほど、と、まいは心の中で呟いた。

「さあ、もう部屋に戻って明日からのプランを練りましょう」

まいがリビングから出ようとしたとき、おばあちゃんは何げなく付け足した。

「私は、まいの意志の力が弱いと思ったことはありませんよ」

まいは驚いておばあちゃんの顔を見た。おばあちゃんは笑っていた。

【マーク式問題】問一～問七の問題は指定された解答番号に正しくマークすること。

問一 …… a～cの本文中における意味として最も適当なものを次から選びなさい。

解答番号は⑨～⑪

a まじまじと

- ① 視線をそらさずに真正面から
- ② 上目づかいでからかうように
- ③ 目を大きくしてわざとらしく
- ④ 本気かどうか試すような目つきで
- ⑤ 意外なことに目をそらしながら

b 真面目くさって

- ① 面倒くさがって
- ② 重苦しい雰囲気
- ③ いかにも真剣な態度で
- ④ 気持ちよく受け入れて
- ⑤ さりげなくふるまって

c やみくもに

- ① 緊張して
- ② 深く考えずに
- ③ 先を見通して
- ④ 積極的に
- ⑤ 粘り強く

問二 ア～ウに当てはまる言葉を、それぞれ次から選びなさい。ただし同じ

番号を繰り返し用いてはいけません。解答番号アが⑫、イが⑬、ウが⑭

- ① 不承不承ふじょうふじょう
- ② 偶像崇拜ぐわうさうはい
- ③ 荒唐無稽こうとうむけい
- ④ 簡単明瞭かんたんめいりょう
- ⑤ 創意工夫そういくふう

問三 部A「おばあちゃんの言う精神力」とあるが、それは具体的にどのような

ことを指していますか。最も適当なものを次から選びなさい。解答番号は⑮

- ① 物事の本質を素早く見抜く鋭い直感力と、それを他人にわかりやすく説明する表現力のこと。
- ② 周囲の意見を柔軟に受け入れ、協調性を保ちながらも自分の意見を調整していく適応力のこと。
- ③ 自分自身の感情や欲望に流されることなく、社会的な規範や道徳にしたがって行動する倫理観のこと。
- ④ 自分の目標を的確に見極め、その信念に基づいて体も心もぶれずに実行し続ける確固たる意志のこと。
- ⑤ どんな困難な状況に直面しても、あきらめずにがむしゃらに努力し続ける執念、粘り強さのこと。

問四 部B「この返事を聞いたときのまいの気持ち」とあるが、この時の「まい」

の気持ちの説明として最も適当なものを次から選びなさい。解答番号は⑯

- ① おばあちゃんが悪魔を口実にして自分の思い通りにさせようとしていることに気づき、いらだっている。
- ② 悪魔を防ぐ本当の方法を知っているのに、それをなかなか教えてくれないおばあちゃんに怒っている。
- ③ 自分の最も苦手なことである規則正しい生活を提案され、悪魔を防ぐことができなかがっかりしている。
- ④ 今まで想像していたよりもとても簡単な方法で悪魔を防ぐことができるということを知って、喜んでいる。
- ⑤ 体力を養う方法について聞いたのに、精神を鍛える方法をおばあちゃんに教えられてとまどっている。

問五 部C「おばあちゃんは目を丸くしたが、そのことについては何も言わな

った」とあるが、この時の「おばあちゃん」の様子として最も適当なものを次から
選びなさい。解答番号は17

- ① まいのこれまでの生活に対する正直な告白に感動し、これからの変化に期待して
いるが、あえて言葉には出さないでいる。
- ② まいのこれまでの生活に対する正直な告白に感心したものの、健康状態を心配し
て誰かに相談しようと考えている。
- ③ まいのこれまでの睡眠時間の少なさや不規則な生活習慣を嘆き、あきれて何も言
えなくなっている。
- ④ まいのこれまでの生活が想像以上にひどかったことに衝撃を受け、これからどう
指導すべきか悩んでいる。
- ⑤ まいの生活の乱れに驚きつつも、まずはまいに目標設定させることを優先し、口
出ししないでおこうと考えている。

問六 部D「ねえ、おばあちゃん。生まれつき決まっているんじゃないの？」

という「まい」の問いに対する「おばあちゃん」の回答に合致しないものを、次か
ら一つ選びなさい。解答番号は18

- ① 意志の力は生まれつき弱くても、少しずつ時間をかけて努力すれば強くすること
ができる。
- ② 努力を続けていると途中で疑いや怠け心が出てくるが、それに打ち勝って続ける
ことが重要である。
- ③ 意志の力を強くする過程は体力をつけていく過程と同じように、地道な努力の繰
り返しである。
- ④ ある日突然大きな変化が訪れ、それまでの努力が一瞬で報われるような経験をす
るものである。
- ⑤ 意志の力をつけることはそれが意志の弱い人にとって特に難しく、挫折しやすい
という側面がある。

問七 文章全体を通して、「おばあちゃん」が「まい」に伝えようとしているメッセー

ジとして最も適当なものを次から選びなさい。解答番号は19

- ① 自分の意志の力は生まれつき決まったものだが、その力を最大限発揮できるよう
に心身をきたえる努力をせねばならない。
- ② 人生の困難を乗り越え、価値あるものを得るためには、自ら目標設定し、地道な
努力を意志の力で継続することが重要だ。
- ③ 魔女になるためには、特別な修行が必要であり、普段の規則正しい生活習慣を改
善するだけでは達成できない。
- ④ 精神を鍛えるためには、まず何よりも体力向上が最も重要であり、それさえでき
れば人生の困難は乗り越えられる。
- ⑤ 悪魔から身を守るためには、規則正しい生活を送るだけで簡単に防ぐことができ
るため、深く考える必要はない。

【記述式問題】 次の問題は記述用解答欄に解答しなさい。

問八 部「覚悟ができてきた」とありますが、それはどのような「覚悟」ですか。
説明しなさい。

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。(設問の都合上、一部本文を改変した箇所がある)

田舎みなかよりはじめて京きやうに上りたる人、三条あたりに宿をとり、「東山へ見物に出る」として、よく覚えよ注1と云ひつくる。「心得こころえ申したり」とうけごうて、さて方々見物して帰り、「洗足せんじゆとれ」とて先へ遣つかひければ、案あんのごとく忘れて、ここかしこを尋ねありく。「さればこそ」と思ひ、「しるしは」と問へば、「異なあやなことぢや、見えぬ」と言ふ。「何をしるしにしたるぞ」と重ねて問ふ。「いや、確かに門柱かどはしらに唾つばにて、書き付けをぞしておき(C)」と言ふ。「沙汰さたの限り。それが役に立つものか」とて散々に叱しかれば、「まだしるしがあり」と言ふほどに、「何ぞ」と問へば、「屋根やまねに鳶とびのとまりてゐたが、はやこれもおらぬよ」。

『きのふはけふの物語』

- 注1 京に上りたる人―京都にやってきた人が
- 注2 下人―召し使い
- 注3 見知りにくいぞ―見分けがつきにくいぞ
- 注4 「心得申したり」とうけごうて―「分かりました」と承知して
- 注5 洗足とれ―足を洗う準備をしておけ
- 注6 先へ遣ひければ―先に宿へ下人を帰したところ
- 注7 異なことぢや―おかしなことである
- 注8 沙汰の限り―驚くことをするよ

【マーク式問題】問一～問五の問題は指定された解答番号に正しくマークすること。

問一 部A「ここかしこを尋ねありく」の現代語訳として最も適当なものを次から選びなさい。解答番号は20

- ① ここはどこかと途方に暮れる
- ② あちらこちらを探して歩きまわる
- ③ ここだあそこだと話し合いをする
- ④ あちらもこちらでも楽しんでいる

問二 部B「さればこそ」は「思った通りだ」と言うほどの意味ですが、何が「思った通り」だったのでしょうか。最も適当なものを次から選びなさい。解答番号は21

- ① 目的地の東山へたどり着けなかったこと。
- ② 京都の街並みがとてもすばらしかったこと。
- ③ 観光の心がまえができていなかったこと。
- ④ 宿への帰り道が分からなくなったこと。

問三 (C)に入る言葉として最も適当なものを次から選びなさい。解答番号は22

- ① たら
- ② たり
- ③ たる
- ④ たれ

問四 ……部 a 「しるしは」と問へば、b 「まだしるしがあり」と言ふほどに」
はそれぞれ誰の動作ですか。その正しい組み合わせを次から選びなさい。解答番号は 23

- ① a 京に上りたる人 | b 下人
- ② a 京に上りたる人 | b 京に上りたる人
- ③ a 下人 | b 京に上りたる人
- ④ a 下人 | b 下人

問五 この文章についての説明として最も適当なものを次から選びなさい。解答番号は 24

- ① 下人の、唾で目印をつけたり、屋根に止まった鳶を目印にしようとしたりするばかりか、行いが笑いを誘う話となっている。
- ② 普段偉そうにしている主人が、下人の知恵によって散々にうちまかされる姿がおかしい笑い話となっている。
- ③ 田舎者が大都会である京都にやって来て、宿でのマナーや文章の書き方が分からず失敗するという笑い話になっている。
- ④ 物知りで厳格な主人と、おつちよこちよいでお調子者の下人のかみ合わない会話が、おもしろい笑い話となっている。

【記述式問題】 次の問題は記述用解答欄に解答しなさい。

問六 ……部 「やう」を現代仮名遣いに直しなさい。

四

文学史に関する次の各問いに答えなさい。

(1) 『源氏物語』においても「物語の出で来はじめの祖」とされる現存する最古の物語であり、現在でも「かぐや姫」のお話として広く知られている作品を次から選びなさい。解答番号は㉔

- ① 伊勢物語
- ② 平家物語
- ③ 竹取物語
- ④ 雨月物語
- ⑤ 若草物語

(2) 「春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる」といった書き出しで有名な、日本三大随筆の一つにも数えられる、清少納言によって書かれた作品を次から選びなさい。解答番号は㉕

- ① 枕草子
- ② 方丈記
- ③ 徒然草
- ④ 風姿花伝
- ⑤ おくの細道

(3) 『日本永代蔵』や『好色一代男』、『世間胸算用』などの浮世草子で知られる、江戸時代の人物を次から選びなさい。解答番号は㉖

- ① 松尾芭蕉
- ② 近松門左衛門
- ③ 井原西鶴
- ④ 小林一茶
- ⑤ 二葉亭四迷

(4) 二〇二五年一月、生誕百年の節目の年を迎えた作家で、『仮面の告白』や『金閣寺』、『潮騒』といった作品で有名な人物を次から選びなさい。解答番号は㉗

- ① 夏目漱石
- ② 森鷗外
- ③ 芥川龍之介
- ④ 三島由紀夫
- ⑤ 村上春樹

(5) 日本にも留学経験がある人物で、「阿Q正伝」や「狂人日記」、「故郷」などの作品で中国近代文学の礎を築いた作家を次から選びなさい。解答番号は㉘

- ① 蒋介石
- ② 魯迅
- ③ 毛沢東
- ④ 成龍
- ⑤ 羅漢中